学校法人神戸滋慶学園 姫路医療専門学校

２０２６年度 第１回 学校関係者評価委員会 議事録

１．開催日時：２０２６年6月１３日（土）１３：３０～１４：４５

２．開催方法：オンライン（ＺＯＯＭ）

３．参加者

：学校関係者評価委員

服巻 陽子 業界関係者（一般社団法人兵庫県言語聴覚士会 監事）

正木 昭次 業界関係者（一般社団法人兵庫県臨床工学技士会 参与）

田中 種男 地域関係者（姫路市城巽地区自治会 顧問）

栗岡 容子 保護者代表（作業療法士科 保護者）

大塚 将史 卒業生代表（作業療法士科 卒業生）

：欠席者の方には、学校関係者委員会と同じ説明をし、評価をいただいた。

浅沼 由紀 業界関係者（一般社団法人兵庫県作業療法士会 理事）

瀬戸川 孝 高等学校関係者（元兵庫県立松陽高等学校校長）

：学校側参加者

向原 伸彦　姫路医療専門学校 校長

今在家 信司 姫路医療専門学校 事務部長兼教務部長

竹内 美保　姫路医療専門学校 作業療法士科 副学科長

今岡 康人　姫路医療専門学校 言語聴覚士科 部門長

帯包 静香　姫路医療専門学校 言語聴覚士科 副学科長

三村 佳祐　姫路医療専門学校 臨床工学技士科 副学科長

荒木 秀幸　姫路医療専門学校 救急救命士科 副学科長

菊野 晃史　姫路医療専門学校 事務副部長

４．会議の概要

（1） 委員のご紹介、校長挨拶

（2） 令和７年度の自己点検・自己評価について

令和７年度本校が実施した自己点検・自己評価の内容を下記１０項目について項目ごとに説明した後、各委員から質疑応答、ご意見を頂き、評価をして頂いた。

① 教育理念・目的・育成人材像

② 学校運営

③ 教育活動

④ 学修成果

⑤ 学生支援

⑥ 教育環境

⑦ 学生の募集と受け入れ

⑧ 財務

⑨ 法令等の遵守
⑩ 社会貢献・地域貢献

（3） 質疑応答・講評
正木委員：二点質問があります。一点は、言語聴覚士と臨床工学技士の国家試験合格率について報告されましたが、臨床工学技士の問題は例年と大きく変わってないのに全国平均の６５.７％は低く感じましたが、学校ではどのように分析されましたか。
今在家：ひねった問題もあったと感じましたが、基本的な問題で点数がとれていないように思いました。
三村：臨床工学技士は３９回目の国家試験でしたが、全国平均合格率は過去ワースト２位でした。問題傾向を分析すると、1点目は現場臨床能力・シミュレーション能力・国語力が問われていました。２点目は図・イラストから現状を読み解く力。3点目は、難しかったのは解剖・病気・治療についても計算力が問われました。こういった点から得点率はが下がり、高得点層は減りましたが、基本問題の取りこぼしがなければ合格圏内だと思いました。
正木委員：読解力が求められた内容だったということですね。
二点目の質問として、今回、診療報酬改定をうけ、下り搬送、例えば姫路赤十字病院から聖マリア病院への搬送についても診療報酬がいただけるようになりました。救急病院では救急救命士の求人が増えたのではないでしょうか。そういったニーズについて、学校としてはどのように考えていますか。
今在家：救急救命士は消防吏員としての活躍が多く、公務員として救急救命士は有利ですが、まだ病院内での業務状況に不安材料もありますので、公務員志向は強いです。今後、正木先生のおっしゃる通り、在学中に病院救急業務についても教育する必要はあると考えています。
田中委員：日本は人口が減少し、労働人口も減少しています。専門学校の学生募集も厳しいと聞いていますが、学生数を増やすための対策は取られていますか。
今在家：今春の学生募集はかなり厳しかったです。これをチャンスととらえ、学校、学科で特色のある学科づくりを進めています。国家資格の養成校だけでは学生は集まりません。数多い学校の中で、本校を一番に選んで頂けるさらなる強みを明確に打ち出していきたいと考えています。
大塚委員：業界のネットワークとなる同窓会の開催ありがとうございました。企画、準備等大変だったと思いますが、自分自身の知識、技術の悩みなどを共有でき、交流の場となりました。同窓会だけでなく、卒業生同士のネットワークを探っていける機会を作りたいと思います。また、各学科のカリキュラムの工夫が、学生の満足度、卒業生の質の向上につながっていると感じました。今回の作業療法士科の国家試験合格率１００％おめでとうございます。今後、国家試験の合格率が入学者数の増加につながれば良いと思います。卒業生としてもなにか協力できればと思います。
今在家：学生を業界に送り出し、業界との関係をさらに密にしていきたいと考えています。オープンキャンパスも卒業生に協力して頂いています。作業療法士科の国家試験合格率１００％については、継続できるように考えています。
服巻委員：色々と聞かせていただき、毎年工夫され、先生方が学生を見守っておられると感じました。若い方の働き方への考え方は年々変わっています。高校生が少しでも業界にチャレンジしてみようと思って頂けるよう、ひきつづき選ばれる学校として頑張っていただきたいと思います。
今在家：学生はこの職業につきたいという夢をもって入学されます。その気持ちを卒業まで継続できる

ように、学生一人ひとりを大切に見てゆきたいと考えています。
栗岡委員：作業療法士科を卒業し、実習先の横浜の病院に就職しました。遠方なので心配もありますが、先輩の指導のもと、医療人として頑張っています。在学中のことが大変役立っていると聞いています。また下の子どもは作業療法士科２年生です。学校生活は大変だが「先生に相談しやすい環境」と言っています。オープンキャンパスの学生スタッフとして、施設見学に参加し、作業療法士の仕事がどういうものなのか、実際見てわかりやすく高校生にも良い機会だったのではと思います。インスタも学校の様子などがわかり、子どもとの会話にもつながっています。
今在家：学生はまず国家試験合格が目標ですが、将来なりたい医療専門職を１年生から明確にした学習計画が必要だと感じています。
田中委員：姫路医療はとてもいい学校と聞いていています。誇りを持って益々いい学校にしてください。
今在家：ありがとうございます。また本日は貴重なご意見を賜りありがとうございました。
次回は 2027 年２月頃を予定しております。